

水と緑の森づくり会議における森づくりプランの後期計画等の検討状況について

平成23年度までとなっている「水と緑の森づくり税」の今後のあり方や、「富山県森づくりプラン(H19～H28)」の後期5ヶ年計画の目標数値等について、去る5月24日に開催された水と緑の森づくり会議の検討内容を報告します。

1 森づくりプラン後期計画の考え方

(1) とやまの森づくり施策の目標(案) 目標年度：平成28年度

区分	現行	改正後	目標設定の考え方
① 里山林の整備	2,000ha	2,600ha	【H19～H23 実績見込み 1,300ha】 【H24～H28 取組見込み 1,300ha】 ・地域の合意形成がこれまでと同じペースで取り組まれることを想定
② 混交林の整備	2,000ha	1,500ha	【H19～H23 実績見込み 700ha】 【H24～H28 今後優先的に整備が必要な面積 800ha】 (過密人工林600ha、風雪被害林50ha、侵入竹林150ha) ・竹林の侵入したスギ人工林について、放置すると公益的機能が低下することから、今後5年間で150haを優先的に整備 ・税導入以降、森林所有者が森林経営に意欲を見せ、混交林のうち650haが間伐実施済み
③ 県民参加による森づくりの年間参加延べ人数	7,000人	12,000人	H22 森づくりの参加延べ人数 約10,000人 ボランティア活動の定着を図るとともに、現状より2,000人程度の増加を目指す

(2) 新たな森づくりの取り組み(案)

内容	計画	所要額	税導入後の状況の変化
① 実のなる木植栽事業 かきがキムシにより枯損したミズナラ林などを復元するため、奥山の被害跡地に実のなる木を植栽(クマなどの餌場を確保)	(H24～28) 50ha	59百万円	・H19からかきがキムシ被害が急増し、これまで里山林を中心に枯損木等を除去 ・奥山の被害跡地の復旧は天然更新に依存してきたが、実のならない樹種の成長が早く元の植生に戻らない
② 優良無花粉スギ造成モデル事業 花粉症の予防対策の一つとして優良無花粉スギの普及を図るため、モデル的に優良無花粉スギを植栽	(H24～28) 40ha	51百万円	・優良無花粉スギの苗が供給可能となるが、(H24、H25:5,000本、H26以降10,000本)購入価格が通常苗より割高になるので普及には支援が必要

(3) 後期森づくり事業の必要額(案)

区分	前期5年間	後期5年間	増減の内容
① 里山林の整備	6.50億円	7.18億円	活動支援内容の充実(活動4～5年目の支援)
② 混交林の整備	6.35億円	6.53億円	侵入竹林整理面積の皆増(150ha)など
③ 新たな森づくり	—	1.10億円	①実のなる木植栽、②優良無花粉スギ植栽
④ ボランティア支援	1.23億円	1.50億円	森林ボランティア数の増加
⑤ 県産材の有効利用など	2.40億円	2.42億円	森づくりのPRの充実
支出計	16.48億円	18.73億円	※5年間で約1億1千万円不足 (収入額) (支出額) (不足額) (17.25億円+0.38億円)-18.73億円 = △1.10億円
税収額	16.86億円 (H23末基金残高0.38億円見込)	17.25億円 (現行どおりとした場合)	

(4) 水と緑の森づくり税の見直し(案)

- ・ 個人負担額は現行どおり、1人500円
- ・ 法人負担額は、県民アンケート調査結果を参考に、森づくり事業の拡充財源として資本金等の大きい大企業について増額を検討

区分		現行	案	
税率		資本金等の額に応じた均等割額の5%	100億円超 2.0倍(80,000円) 50億円超 1.5倍(60,000円) 均等割額の5.0%、7.5%、10.0%	
資本金区分による税額	50億円超～	100億円超	80,000円	
		50億円超～100億円以下		60,000円
		10億円超～50億円以下	27,000円	現行どおり
		1億円超～10億円以下	6,500円	
		1千万円超～1億円以下	2,500円	
	1千万円以下	1,000円		
税収増額		—	年約22百万円増	
年間税収額	個人	2.90億円	2.90億円	
	法人	0.68億円	0.90億円	
	計	3.58億円	3.80億円	

備考1 平成21年度の数値によるもの。

2 委員からの主な意見

- 実際に自分の集落で里山再生整備に取り組んだところ、少子高齢化が進む中で森林所有者だけでは里山の維持管理はできないことがわかり、地域住民が力を合わせて取り組まなければならないといった意識の醸成が図られた。今後も里山再生整備は継続し、新たな課題にも取り組んでもらいたい。
- 子を持つ親として、森の寺子屋のような活動はこれからも継続して実施してほしい。
- 新しい課題に対応するにはその財源が必要であり、企業の理解が得られるのであれば、提案に賛成する。
- 企業は地域に根ざして活動し、社会的責任を果たすことも必要である。その意味でも、この程度の負担額であれば、規模の大きな企業に、さらに負担を求めることは賛成である。
- 県産材による家づくりへの支援については、森林資源の循環利用の観点から、その財源に森づくり税を充てて、継続的に実施してもらいたい。
- 個人の負担額についても、新たな課題に県民と共に対応するためにも増額しても良いのではないかと。

3 今後の予定

委員等からの意見を踏まえて森づくりプラン後期計画(案)を作成し、7月にパブリックコメントを実施

(参考資料)

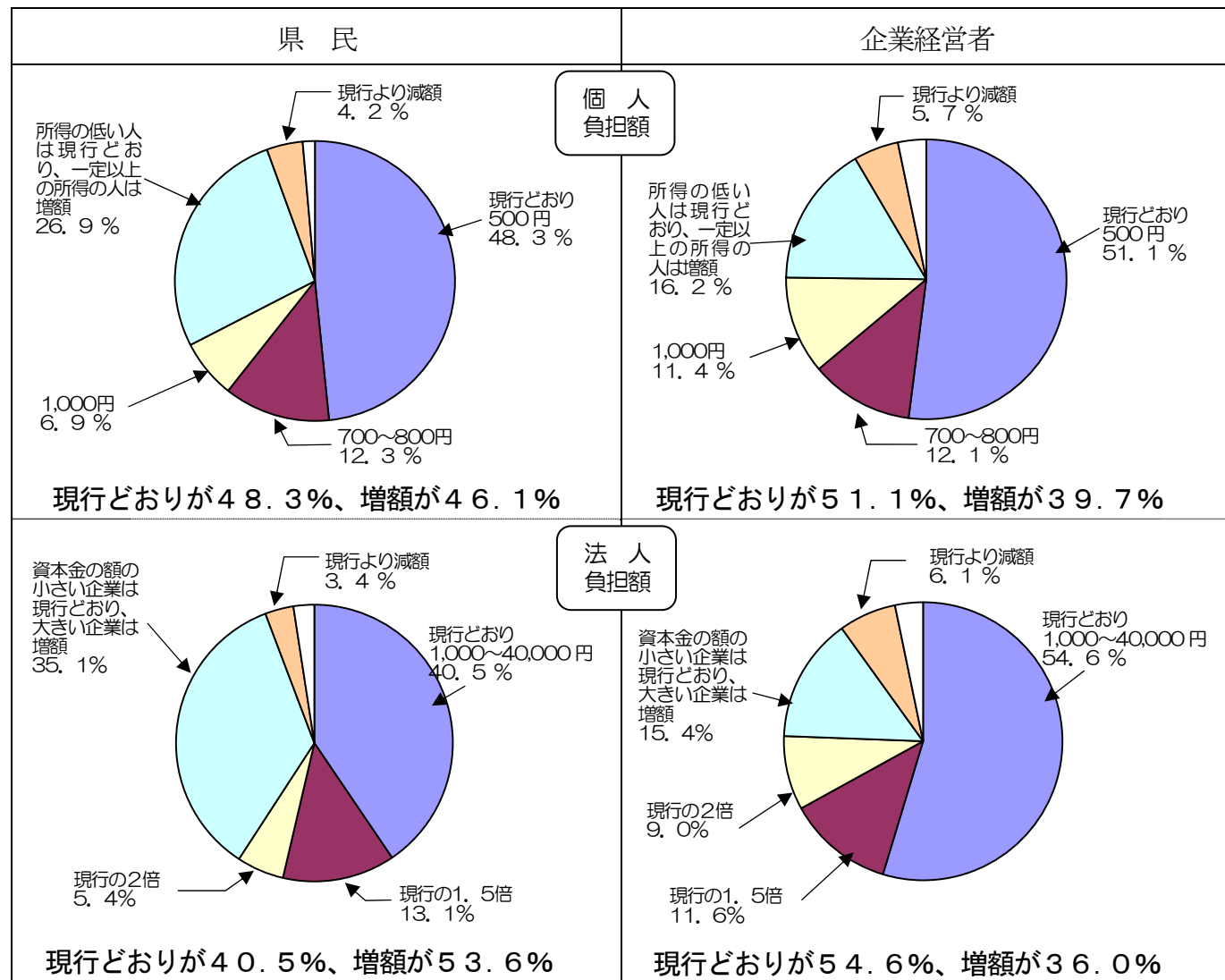
参考1 森づくり税の活用成果 (富山県森づくりプラン施策の目標と年度別実績等) 単位: ha、人

区分	年度	実績				計画	合計	中間目標	最終目標
		H19	H20	H21	H22	H23		H19-23	H19-28
里山林整備	整備面積 <新規地区数>	366 <44>	373 <40>	333 <37>	145 <20>	80 <15>	1,298 <156>	1,000	2,000
混交林整備	整備面積	61	74	132	212	220	700	1,000	2,000
県民参加による森づくりの年間参加延べ人数		6,920	10,033	10,999	10,262 <速報値>	-	-	(H23) 6,000	(H28) 7,000

参考2 水と緑の森づくりに関する県民等のアンケート調査結果 (H22年11[県民]、12月実施[企業経営者])

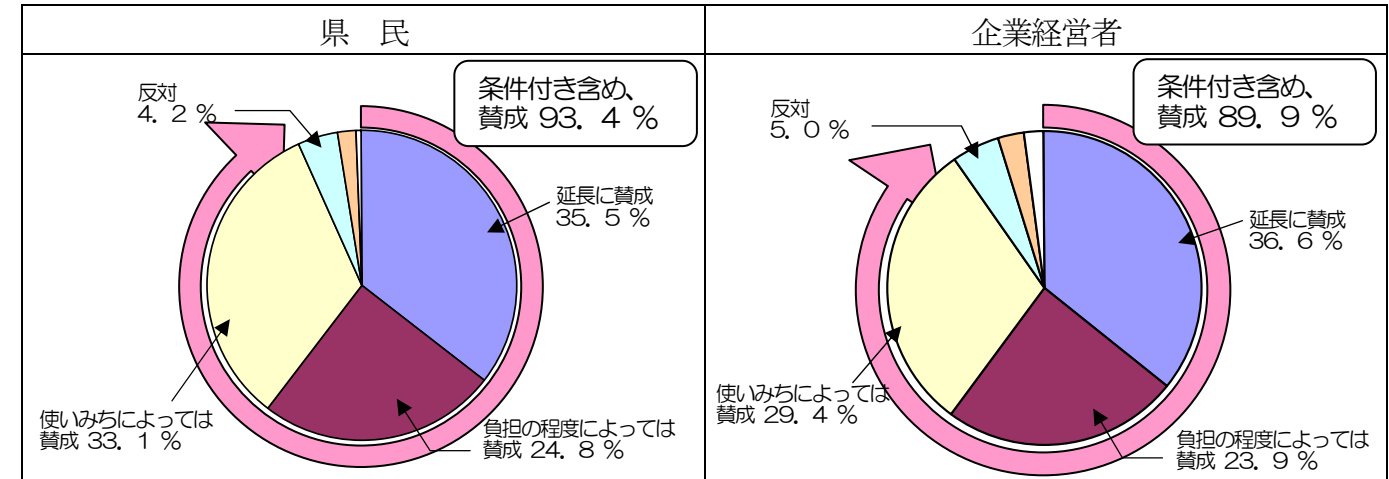
(1) 新たな森づくり税の税額について

- 個人分、法人分とも現行どおりであるとする意見と増額とする意見がおおむね拮抗
- 個人分については、県民、企業経営者とも現行どおりが約半数。
- 法人分については、県民は増額、企業は現行どおりが過半数。



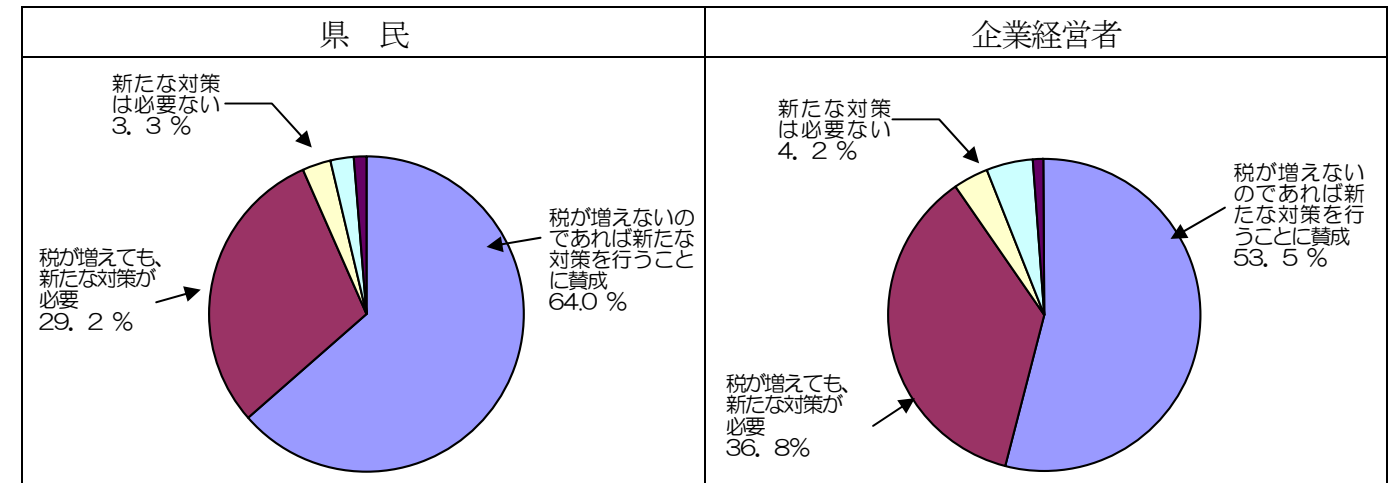
(2) 森づくり税の延長や森づくり事業の継続について

- 県民、企業経営者とも9割程度の賛成



(3) 新たな取組みや内容の拡充について

- 8割の方々が事業の継続や内容の拡充を、さらに新たな対策について9割の方が賛成



参考3 森づくりタウンミーティングの開催結果

昨年10月~12月、富山市など3会場で開催。主な意見は次のとおり。

富山会場	<ul style="list-style-type: none"> 里山林の整備は、地域の文化や教育の向上にも役立っている。今後は、里山を中心とした様々な地域活動にも積極的に取り組んでいきたい。こうした取り組みを各地で広げるためにも、平成23年度までとなっている水と緑の森づくり税を延長してほしい。 とやまの森づくりサポートセンターから支援をいただき大変助かっている。今後も、森林ボランティアの育成や安全に関する教育を継続してほしい。 県産材を住宅に使うことにより森の整備につながる。県産材の意義や良さをPRするには非常に効果的なので、県産材住宅への助成を継続してほしい。その助成に水と緑の森づくり税を充てても良いのではないかな。
高岡会場	<ul style="list-style-type: none"> 竹林は整備しても放置すると元に戻るため、森づくり税を活用し継続して取り組む必要がある。 里山林整備に着手した場所は、継続した整備を進めることが必要である。そのためには住民だけの力では限りがあるので水と緑の森づくり税を活用した里山再生整備事業の支援を継続してほしい。 カシノナガキクイムシの被害木の防除を一層進めてほしい。また、カシノナガキクイムシの被害跡地に実なる木を植えてはどうか。
魚津会場	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害の防止など森林の持つ公益的な機能を高度に発揮するためにも、風雪被害林や手入れの遅れた過密人工林を針広混交林にすることは必要である。実施する財源が不足するようであれば税額を引き上げても良いのではないかな。